

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

戸畑

高等学校

16

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>「一生懸命がかっこいい」と努力する生徒一人一人が輝ける学校</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 困難を乗り越えて物事を成し遂げる力 ○ 課題を適切に理解し、解決できる思考力・判断力・表現力 ○ 規範意識、公共の精神、自己肯定感 ○ VUCAの時代に生きる希望進路を実現できる力
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 失敗や間違いを恐れずに挑戦する場や機会の設定 ○ 「AIで探究する、AIを探究する」キャリア教育プログラム ○ 多様性を重んじ他者の考えを自らの考えに取り込む協働的で個別最適な学び ○ バックキャスト思考を用いて目的意識を明確にする丁寧な進路指導
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勉学と部活動・生徒会活動で努力する意欲の強い人 ○ 困難に負けないたくましさ身に付けようとする人 ○ 将来社会で活躍できる力を身に付けたい人 ○ 自他の強みを認め、互いにそれらを生かし合おうとする人 ○ 高度な資格取得等に挑戦する人

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>各教科の学習や学校行事、部活動、生徒会活動等に主体的に取り組む中で、他者と協働しながら挑戦し続ける力を育むとともに、独自のキャリア教育プログラムにより課題解決能力を伸ばし、予測困難な時代を心豊かにたくましく生き抜き、国際社会や地域の発展に貢献する高い志を持った人材を育成する。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>昨年度初めて体育大会を総合体育館で行うなど、各種行事等の内容改善や工夫充実を目指して教育活動を展開することができた。 今後は、本校のスクール・ミッションに照らし、中長期的な視座に立った現状分析を行い、課題解決に向けた具体的方策を関係者間で共有し、本校の使命を果たすべく教育活動を展開していく。 今年度は特に、「学びあう」をキーワードに、他者と協働しながら挑戦し続ける力を育むことに焦点を当て、地域や国際社会との関わりから、学問につながる深い学びを目指す。その際、対話により合意形成する力を身に付けられるよう、心理的安全性を高める教育活動を推進する。また、来年度の創立90周年を契機に「戸高ブランド」の発信を戦略的にを行い、学校力を高めていく。</p>	<p>学びあう「主体的・対話的で深い学び」の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文房具としてのICTを活用した新たな学びを深化させる。 ・先哲の考え方を手がかりに、地域や国際社会との関わりから学問につながる深い学びを目指す。 ・「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントを実施する。 	<p>A</p>
	<p>学びあう豊かな人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話により合意形成する力を身に付けられるよう、心理的安全性を高める教育活動を推進する。 ・互いの良さや可能性を発揮できる人権尊重の精神の涵養を図り、社会貢献の意思を育む。 ・自分も他人も価値ある存在として尊重し、互いの命を守る意識を高める。 	
	<p>学びあうキャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「AIで探究する、AIを探究する」で組み立てるキャリア教育「Ace Program」のさらなる充実を図る。 ・英語イメージ教育等により生徒の実践的英語力を高め、グローバル人材の育成に注力する。 ・高い目標への挑戦を丁寧に支援し、失敗しても挑み続ける心を育てる。 	
	<p>学びあう学校力の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OJL並びに業務のICT化と不祥事防止に努め、学びあう教職員集団として組織力を高める。 ・来年度の創立90周年を機に「戸高ブランド」の発信を強め、安定的な志願者確保につなげる。 ・関係団体等との連携を強化し、生徒の成長とともに喜び合う「チーム戸畑」として学校力を高める。 	

様式3

人権・同和教育	生徒に人権啓発活動の意義や重要性について正しい知識を習得させる。	学校の教育活動全体を通じて、全職員で人権教育の推進を図る。	学校生活アンケート 面談等	B	B	B	特設授業の指導案の検討を重ね、より効果的な学習を深められた。次年度は特設授業の日程を早めに設定し他の分掌との調整を図りたい。	B	・日頃の教育活動の中で人権意識を育成することが大切だと感じる。十分に生徒達を育てていると思う。
	生徒の人権意識や人権感覚を高めるために、よりよい学習活動・人間関係・学習環境づくりに学校全体で取り組む。	人権・同和特設授業の充実を図るため、人権・同和推進委員会、学年で実施内容を十分に検討する。特設授業は1、2年生は年3回、3年生は2回実施する。	学校生活アンケート	B			A	個別の人権課題に関する取り組みでは人権の知識を共感的に理解し自分事として認識することができた。次年度も人権教育講演会を継続したい。	
	職員の人権教育研修会への参加を奨励し、人権意識の高揚を図る。	他の分掌や委員会と連携しながら日頃の学校教育活動を通じて、人権教育が推進される学校経営・生徒指導等の実践を目指す。	学校関係者アンケート	B	B		研修への参画意識や意欲の向上により人権教育を基盤とした効果ある学校づくりが推進された。次年度も教職員対象研修会を実施したい。	B	
		職員の人権教育に関する外部学習会への参加を積極的に促し、自己啓発を行う。		A					
1年	基本的生活習慣の確立および規範意識の向上	一日一人を目標に、個人面談を通して生徒の生活状況把握に努め(特に睡眠時間)、個に応じた適切な助言を行う。	学校生活アンケート	B	B	A	教室環境の整備が不十分、始業時間の不徹底等、基本的なルール・マナーの遵守ができていない場面が見受けられた。今後も、初動を素早くして対応するとともに、基礎基本を徹底させていきたい。	B	・地域の活動で生徒達が活躍している姿をよく見かける。地域の方がとても喜んでいて。
	授業中心の学習の確立および特色化選抜生徒を中心とした挑戦する雰囲気作り	ルールや時間を守ること、挨拶・礼儀・掃除・周囲への配慮等の大切さを理解させ、規律ある落ち着いた集団づくりを行う。	授業アンケート	B			A	難関大講座受講者は例年に比べ少ないが、いい集団としてまとまっている。学習のサイクルは定着しているが、やはり個人差があり、読書習慣の定着と合わせて今後の課題である。	
	進路意識の向上と目標の明確化	読書を勧め、学習法の定着、予習・授業・復習の確立を図る。また上級生、卒業生、外部講師等からの講話や座談会を活用する。	進路希望アンケート	B	A		校外の方との交流はとても良い機会で、ボランティア活動にも積極的に参加している。総合的探究の時間では、学習支援プラットフォームを有効に活用できた反面、自らの具体的な進路決定に(大学・学部)至っていない点が課題である。	A	
2年	中堅学年としての主体的集団の育成	総論的な探究の時間での活動を中心に、自己理解を進めるとともに、社会の諸問題に目を向け解決を目指す探究心を育成する。	学校生活アンケート 振り返りシート等	B	A	A	中堅学年として学校行事や部活動等、様々な場面で主体的・協働的に活動し、多くの成果を収めることができた。次年度は創立90周年節目の年の最高学年として、各自が他者への配慮を欠かさず、対話により合意形成する力を高め成長することで、本校の発展に貢献させたい。	A	・創立90周年の節目の年に向けて活躍を期待する。
	進路意識の高揚及び目標の明確化	「一生懸命を楽しみ、失敗を恐れず挑戦し続けることができる」環境作りを目指す。個人面談等を通して支援する。その際、教員は指導者の役目に加え、ファシリテーター役を担うことも意識する。	進路希望アンケート 振り返りシート等	A			A	各研修に目的意識を持って参加し、研修後は目標を更に高め、継続的に粘り強く学習に邁進している。課題研究では、人との協働に加え、AIによるフィードバックを導入し、より良い探究プロセスの構築に挑戦した。今年度は難関大志望者20名を達成した。次年度は、全員が進路実現への挑戦を完走できるよう教員が丁寧に支援していきたい。	
	学力向上のための支援体制の充実	日本の次世代リーダー養成塾、海外研修、関東研修、インターンシップ等の校外研修や、オープンキャンパスへの参加等を通して、生徒の知見や視野を広げ、進路意識や学習意欲を高める。旧帝大を含む難関大志望者20名以上を目指す。	授業アンケート 振り返りシート等	B	A		基礎学力コンクールの継続的な取組が、生徒の基本的な知識・技能の定着に貢献した。ICTによる生徒の個別最適な学びへの支援も浸透してきた。次年度は、生徒の進路実現に向け、更に広く深化させたい。	A	
		「AIで探究する、AIを探究する」Ace Programにおいて、探究のプロセスを繰り返すことで、物事を多角的に捉え、論理的に思考し、課題解決に向けて自己の考えを分かりやすく表現できる力を育成する。		A					
3年	組織的かつ計画的な進路指導の実現	月1回の基礎学力コンクールの実施により、教科・科目の到達目標を明確化し共有することで生徒の個別学習・協働的な学びを支援する。	学校生活アンケート	A	A	A	担任会議・学年会議等を活用し、丁寧に情報共有することができた。また年間を通して、各クラスで個人面談を行い、進路支援を継続的に行うことができた。今後も個人面談の時間を確保していきたい。	A	・卒業後のさらなる活躍を心から期待している。
	授業を中心とした学びの機会の確保と充実	ICTを活用した指導等により、生徒の学習到達度に応じた個別最適な学びを提供する。	授業アンケート	B			A	正課授業や課外(朝・放課後)の内容、個別添削等を工夫し、個々の進路目標に応じた教科指導を実施することができた。また、放課後の自習教室の整理を行い、それぞれの方法で学習できる環境づくりに努めた。	
	自己肯定感の向上と粘り強く挑戦する姿勢の育成	毎週行われる進路部会や第3学年担任会の内容を当該学年担当教員(正副担任、教科担任)全員で共有する。	進路希望アンケート	A	A		受験に向かう強い姿勢や団結力のある集団づくりを目指して、年間を通して様々な声掛けを行った。授業の大切さや集団での学習の意義など、もっと伝える機会があれば良かったと思う。	A	
事務室	県の事務職員定数削減をみ据えた、効率的な事務処理の確立	業務別に、さらなる標準化を図り、効率化を具現化する。	学校生活アンケート	B	A	A	学校会計クラウドシステムやWEB出願システムの新システム移行については、事前に問題点や明確にするべき手順を確認し対応することができた。また、業務の効率化については、次年度以降の事務室執行体制の見直しに向けて、さらに次のステップへ進めて、少人数体制を想定した具体案を検討する必要がある。	A	新システムへの移行は大変だと思うが、業務の効率化に向けて取り組んでいただきありがたい。
	安全な学習環境の確保	新しいシステムが導入されて効率化が悪い仕組みは、問題点を洗い出しを行い、適正かつ効率的な事務体制を構築する。		A			A		
	危険箇所の再点検及び改善を進め、安全な学校環境を維持する。			A	A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ポリシーを刷新し、校務分掌組織の改編を行い、本校の魅力を最大限に生かした教育活動に取り組んでいく。 ・コミュニティ・スクールの導入により、本校の強みである地域との連携を一層推進し、独自色を際立たせ存在感を高める。 ・総合的な探究の時間を大学や行政機関等との連携によりアップデートし、生徒の深い学びへとつなげていく。 ・柔軟な教育課程の在り方についての研究を進め、本校の特色化を図り、普通科高校の抱える教育課程上の課題解決に資する。 ・イマージョン教育、インド交流、海外研修などの内容を見直し、本校オリジナルの取組として深化させる。 ・先進校視察や、保護者及び近隣中学校教諭対象の公開授業等、今年度の取組を継続実施し、学び合う教職員集団として組織力を高めていく。 ・来年度の創立90周年に向けて、同窓会、PTA等の支援を受け、機運を高めつつある。「戸高ブランド」の発信をさらに強めていく。 ・本校3年間の中で、生徒一人一人が夢を育て、目指す進路を決定し、それを達成していくキャリア教育のシステムをさらに充実させていく。 ・部活動における、具体的な目標を立て、生徒自身が考え、学びあい高めあいながら目標を達成できる環境づくりに取り組んでいく。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
<p>今後、高校の授業料の実質無償化がスタートし、高校間の競争が厳しくなることが予想されます。戸畑高校としてのプレゼンスを更に高める、一歩先行く取り組みに期待します。</p>	